

## 緑化等功労者の表彰

林業の振興や緑化の推進などの様々な分野で功績のあった方々への表彰が行われ、119 の個人や団体が表彰を受けられました。



令和4年度 全国緑の少年団活動発表大会 「全国育樹祭大会会長賞」



令和4年度 ふれあいの森林づくり 「国土緑化推進機構会長賞」



令和4年度 全国育樹活動コンクール 「農林水産大臣賞」



第45回全国育樹祭 大分県緑化等功労者

## 緑の贈呈

大分県内の緑の少年団が大切に育てた苗木(ブンゴウメ、サザンカ、ボタンザクラ、イロハモミジ)が、全国から選ばれた緑の少年団の代表に手渡されました。



「ブンゴウメ」(大分県の県花・県木)  
米沢市緑の少年団(山形県)に贈呈



「イロハモミジ」  
(第51回全国植樹祭でお手播きされた樹種)  
日浦緑の少年団(愛媛県)に贈呈

「サザンカ」(大分市の市花)  
城山小学校みどりの少年団(岐阜県)に贈呈



「ボタンザクラ」(豊後大野市の市花)  
横田中学校緑の少年団(島根県)に贈呈



### 苗木の育成

県内の緑の少年団の皆さんが苗木を大切に育てました。

- ・別府市みどりの少年団第2・4分団
- ・八坂かっぱクラブ緑の少年団
- ・大分市子ども会みどりの少年団
- ・津久見川上みどりの少年団
- ・大野小学校みどりの少年団
- ・きりかぶみどりの少年団
- ・高瀬みどりの少年団
- ・みわみどりの少年団
- ・三郷小学校みどりの少年団



## 緑の少年団活動発表

三郷小学校みどりの少年団が「山・川・海のつながりを学び、災害に強い未来の森づくりをめざす」をテーマに、日頃の活動について発表しました。

秋篠宮皇嗣同妃両殿下をはじめ、大会会長や大分県知事などの登壇者は客席に御移動され、参加者の皆様とともに発表を御覧になりました。



三郷小学校みどりの少年団 栗野 雅斗さん（左）、唐紙 菜心美さん（中）、中 璃空斗さん（右）



## 山・川・海のつながりを学び、 災害に強い未来の森づくりをめざす

皆さん、こんにちは。私たちは、「三郷小学校みどりの少年団」です。私たちの学校、三郷小学校は、大分県の北西部、中津市山国町にあります。少年団は昭和 57 年に結成され、今年で 40 年目を迎えます。団員は全校児童で構成され、現在は 52 名で活動しています。

山国町は、山国川の源流と美しい山々に囲まれた、自然豊かな町です。しかし、一方で、豪雨や土砂災害に見舞われることも多く、私たちは自然の「美しさ」だけではなく、「怖さ」とも共生していかなければなりません。そこで、三郷小学校みどりの少年団では、山・川・海のつながりを学習しながら、ふるさとの森を守り育てる活動を通して、「災害に強い未来の森づくり」を目指して活動に取り組んでいます。

これから、私たちの取り組みを紹介します。

1年生から3年生までは、身の回りの自然への関心を深め、自然に親しむことを目的とした活動を行っています。1年生は、里山へ出かけ、森での巣箱の観察や自然散策、笹舟づくりなどを実施しました。2年生はしいたけの「こま打ち」、3年生は自然探検を行い、地元の自然についての理解を深めました。4年生からは、いよいよ少年団活動が本格的に始まります。「森林のはたらき」についての学習を行い、山・川・海のつながりを学びました。また、実際に山国川の源流まで歩いて、自然観察を実施しました。源流の途中にある災害復旧工事の現場も見学し、防災意識を高めました。さらに山と海のつながりを学ぶため、中津市北部にある中津干潟を訪れ、生き物の観察を行いました。ふるさとの山から川を通して豊富な栄養が運ばれ、豊かな海を育てていることを学習しました。また、高学年は、防災意識の向上を目的に、地域の方の御協力のもと、防災学習を行っています。森林の持つ多面的な機能などについて学習し、模型やVRゴーグルを使って体験学習を行いました。学習を通じて、自分たちが慣れ親しんだ地域の自然が持つ恐ろしさを知り、自分たちに何ができるかを考え、話し合いました。学習後の学校通信では、地域の方への防災意識を高める内容も発信しました。最後に、6年生は、これまでの学習のまとめとして、「災害に強い未来の森づくり」に向けて、植樹活動と枝打ちを行いました。活動に利用した苗は、1年生が地域の山で拾った木の実を、4年生が「苗づくり活動」で育てたものです。さらに、間伐材を利用して、地域の避難所に備える災害用の薪づくりも行いました。この活動は、山と海のつながりを再確認するために、大分県漁業組合の方々と一緒に行いました。このように、「三郷小学校みどりの少年団」は、多くの方々のあたたかい御支援をいただきながら、1年生から6年生まで、全員で活動に取り組んでいます。「山・川・海のつながりを、人のつながりへ」。以上が「災害に強い未来の森づくり」を目的にした私たちの主な活動です。

私たちは、少年団の活動を通して、自然の持つ「美しさ」、そして「怖さ」という二つの側面にきちんと向き合うこと、そして、「豊かな自然の美しさを守ること」と「自然の怖さから身を守ること」、二つを両立することの大切さを学び、伝え、繋いできました。10年後、20年後の未来に、私たちの「ふるさとの森」が、さらに豊かで、「災害に強い森」になるように、私たちは、地域の皆様と協力しながら、ふるさとのみどりを守り、育てる活動を続けていきます！

## ◆ メインテーマアトラクション「始まりの地から、未来へ」

### ◆ 序章：大分県林業の歴史

大分県出身で、現在は故郷大分を生活の拠点とする女優 財前直見さんによる語りから、メインテーマアトラクションは始まりました。

「県内でも林業が盛んな地域である日田では、今から500年以上前の延徳3年、1491年、日田市中津江村にある宮園神社の社殿を再建する時に、杉の苗木を植えたことが、日田の林業の始まりとされています。江戸時代の初期、1680年代に始まった、水運を活用した筏運送による竹や木材の商いにより、日田は日本有数の林業地としての歴史を刻んできました。」



### ◆ 第1章：大分の森づくりや林業の現在の姿

第45回全国育樹祭PR大使の白石花恋さんとPR天使の佐藤くららさんが向かったのは九重町のスギ林の伐採現場。最新の林業機械であつという間に丸太ができて運ばれていく作業を目にして「ロボットみたい！」と驚き、案内していただいた社長さんへの質問が止まりません。そのまま伐採した後の植林現場へ。伐った後はしっかり植えて、「手をかけてあげるほどきれいな森になる。」との社長さんの言葉にうなづく二人。財前さんに「新しい機械が使われていて、本当にかっこよかったです。」と報告。最近では成長の早い木も植えて健全な森林を作っていることを、「となりのトトロ」の曲に合わせてダンスで表現しました。



両殿下も会場の皆様とともに手拍子をして御観覧



メインテーマアトラクション「始まりの地から、未来へ」

### ◆ 第2章：木材利用、循環型林業の大切さ

続いて二人は、日田の原木市場へ。一日 50 台ものトラックに積まれて大きな丸太がどんどん運び込まれ、仕分けられていく迫力にうらはらはびっくり。「日田は近辺も含めて 14 の市場があって、毎日どこかで市売りがされています。」との説明に、この丸太がどこに行くのか気になった様子。同じ日田市内にある家具工場に向かい、たくさんの工程で丁寧に、素敵な家具が出来上がっていることを知り、下駄工場に移動してスギ下駄の鼻緒付けを体験。湯布院の工房では木でお皿や器などが作られていることを学びました。

木を暮らしの中に取り入れ、「伐って使い・植えて育てる」林業の循環を保つことが森林を守り、地球を守ることに繋がることを、「瑠璃色の地球」の曲に合わせてダンスで表現しました。



### ◆ 第3章：森への誓い

森や木材に触れて木材の循環利用の大切さを学び、「私たちも森を未来につないでいかなければならないと強く思いました。」と花恋さん。多くの県民より集めた森へのメッセージから紡いだ「森への誓い」を提唱しました。

〈森への誓い〉

- 受け継がれてきた青々とした森林、豊かな自然、鮮やかな景色を、私たちが守ります
- 地域とともにある自然の恵みに感謝しながら、よりよい暮らしづくりに活かします
- 豊の国おおいたの美しい森林、私たちが今と未来をつなぐ懸け橋となります



## 大会宣言



公益社団法人 国土緑化推進機構  
理事長  
濱田 純一

木材の供給をはじめ、国土の保全や水源の涵養、地球温暖化防止など多面的機能を発揮している森林を、社会全体で守り育てていくことは、私たちに課せられた大きな使命である。

豊かな森林に囲まれ、全国育樹祭の始まりの地であるここ大分県で開催された第45回大会にあたり、改めて森林と私たちの暮らしとの深いつながりを認識し、SDGsやカーボンニュートラルの実現にも貢献する豊かな森林を次世代に引き継いでいくことを目指し、次のことを宣言する。

- **森林の有する多面的機能が将来にわたり十分に発揮されるよう、「国民参加の森林づくり」を力強く進める。**
- **健全で豊かな森林を育み、木材利用を促進することで、「木を伐って使い、植えて育てる」森林資源の循環利用の確立を目指す。**
- **森林を守り育て、木のある暮らしを未来に引き継いでいくため、次代の森林づくりを担う青少年の育成に一層取り組んでいく。**

令和4年11月13日  
第45回全国育樹祭

## 次期開催県あいさつ



茨城県知事  
大井川 和彦

先ほど御紹介にあずかりました、茨城県知事の大井川和彦です。本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、第45回全国育樹祭が盛大に開催されましたこと、心からお喜び申し上げます。この大会の開催にあたり、御尽力されました大分県の皆様、関係者の皆様に心から敬意を表します。とりわけ、私にとって経済産業省時代の大先輩であり、長年、大分県政を担ってこられました広瀬知事に、心から感謝と敬意を申し上げます。

さて、次期開催県である茨城県は、温暖な気候と肥沃な大地、暖流と寒流が交わる豊かな海に恵まれ、栗、メロン、干し芋、レンコンなど多くの品目で生産量日本一、農業産出額は全国第3位となっております。海面漁業における漁獲量も全国2位であり、まさに食の宝庫でございます。また、高級店からも高い評価を得ております、茨城県オリジナル品種の梨の「恵水」や、豚肉の「常陸の輝き」など、ブランド食材が豊富にあるほか、関東屈指の酒どころでもございます。

林業につきましては、北部の八溝地域を中心に良質なスギやヒノキを産出し、関東で有数の素材生産量を誇っており、首都圏への木材供給地としての役割も期待されております。そうした中、茨城県では、林業の成長産業化のため、林業経営体の基盤強化や、大規模中高層建築物などへの新たな木材の利用開拓に向けた取り組みを行ってきており、大規模な林業経営体も現れてまいりました。

来年、茨城県で開催します第46回全国育樹祭でも、こうした取り組みを踏まえ、「誰かじゃない 僕が育てる 緑の日本」を大会テーマに、お手入れ行事を潮来市の「水郷県民の森」で、式典行事を水戸市の「アダストリアみとアリーナ」でそれぞれ開催し、未来につながる新しい林業の姿を力強く発信してまいります。

来年秋には、「体験王国いばらき」をテーマに、JRグループと地域が一体となって行う国内最大規模の観光キャンペーン、デスティネーションキャンペーンを展開いたしますので、それに向けて魅力あるコンテンツも用意してまいります。茨城県は皆様のお越しを心よりお待ちしております。

## 閉会のことば



大分市長  
佐藤 樹一郎

本日ここに、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、「豊かなおおいた<sup>もり</sup> 森林を育み 木と暮らし」を大会テーマといたしました、第45回全国育樹祭の式典は、皆様の御協力のもと、滞りなく終了することができました。全国各地から御参加いただきました皆様には、早朝から大分市の昭和電工武道スポーツセンターにお集まりいただき、誠にありがとうございました。地元大分市民を代表して、心から御礼を申し上げます。

森は、私たちに多くの恵みと安らぎを与えてくれます。本市では、市内10か所にセラピーロードを整備し、心と体をリフレッシュできる森林セラピーの普及や、木材に親しみ木の文化を理解してもらう木育フェスの開催など、森の大切さを伝える取り組みを進めております。

本日開催された全国育樹祭が、森とともに暮らす持続的な社会を未来の子どもたちへ引き継ぐ大きな一歩となりますことを心から御祈念申し上げ、閉会の言葉とさせていただきます。

## 秋篠宮皇嗣同妃両殿下 御退場

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、緑の少年団にお声がけした後、式典会場を後にされました。



エピローグ

◆ ヴァイオリンソロ演奏・弦楽四重奏

日田家具の高い加工技術で作られた杉のヴァイオリンを手に、別府アルゲリッチ音楽祭などで活躍するヴァイオリニスト 朝来桂一さんが登場。大分県を代表する作曲家、滝廉太郎の「荒城の月」を奏でました。



朝来 桂一さん

続いて、杉ヴァイオリンを中心に弦楽四重奏を披露。スクリーンでは、大分県内の次代の担い手を中心に、「未来へのメッセージ」が放映されました。



第1ヴァイオリン：朝来 桂一さん 第2ヴァイオリン：甲斐田 柳子さん ヴィオラ：柳井 かなさん チェロ：家長 玲於さん

◆ 未来へのメッセージ



大分県木材青年連合会



日本文理大学



大分県漁業協同組合青年部中津支部



森のようちえん「おひさまのはら」



大分県立日田林工高等学校



森の先生



日田家具衆（ひたかぐら）



おおいた林業アカデミー



白杵市立西中学校



木繋会（きづかい）

エピソード

◆ フィナーレ

最後には出演者の皆さん、大分市立吉野中学校、大分市立佐賀関中学校、大分市立原川中学校、中津市立城北中学校の皆さんも事前収録でスクリーンに登場し、「上を向いて歩こう」の大合唱で終演しました。

